京城新報

人の子は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金九十錢 ▲六ヶ月前金一圓八十錢 ▲郵稅一ヶ月十五錢
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十五錢 ▲特別廣告は五號活字十七字詰一行金二十五錢
月曜日及大祭日の翌日は休刊
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久鶴一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番

京城一瞥（五） 殖民地の家庭 赤毛布

問に就て、學校教師の學識を兎や角批評したりするは、要するに兒童をして教師を輕蔑する念を萌芽ならしめ、又は師匠の情を寢やしむるので、兒童のためには何等益する所はないのである。實に思はざるの甚しきものと云はねばならぬ。全体兒童の教師に於ける、其の師を尊敬し崇拜するの心があればこそ、教師の教訓する所が、一々腦裡に印せられ、記臆に存し、誠に服して命を奉ずるに至るのである。若しそれ、一たび教師を輕蔑するの念を兒童に起さしむるか、家のお蔭さんは彼先生は學問が無ひから駄目だと云はれ、其家人に於て蔑ひないでも親宅の御さんの方が餘っ程賢いなどと、兒童は直ぐに先生を尊敬する心を取り去けて、内心で教師に抗爭するといふ念を生じ、何を聞いても聞き流しに、見れば見捨にし、所謂馬耳東風に徹せず、徒らに面前の服從を裝ふに過ぎざらんとするの結果を生じて來るので、斯くては人生第一歩たる學校の教育に大なる錯誤を生じ、折角後來睨を追ふて上達すべき路を杜塞し、恐ろしい邪路に踏み迷ひ、終に終生を林の間に埋し去る樣な、悪い結果を見る樣になるのである。異に懸念ねばならぬ事じや、惡少年と云はるゝ輩に就て其因を調べて見ると大概父兄の注意が缺如し、兒童時代に調養宜しきを得ず、微細な事でも慣んでからぬから、知らず識らず惡心を招致せしめたものである。異に恐るべきことではないか……ナニ京城に於ける賣淫婦が白晝公然市中を濶歩するのは、家庭に及ぼす影響が甚だ悪いと云ふか、然り之れ大に論ずべき問題であるが、其よりも僕は當地の某官衙を訪ひ給仕の横着なるには驚いた、彼給仕なるものゝ家庭の調養が亦思ひ遣られるのだ、彼給仕なるものは恰も晏子の御者然だ、彼等輩の事を想像せると、極めて可哀さうである、マア晏子の御者とは何か、君も解らん男ぢや、今説明してやるからマア耳の穴をホジッて居給ひ

●殖民地通信力（下）

△小包郵便（四十二年度）

	引受額	配達額
臺灣	三〇〇、五九八	四三六、六三二
朝鮮	四八九、一五三	一七四、六〇七
樺太	二、一五四	三二、三六八
滿洲	一三二、三二一	二七五、六四五

人口百に對する引受個數臺灣九、朝鮮五十五、樺太四十五、滿洲五十二個又配達個數臺灣十四、朝鮮八、樺太百二十四、滿洲百三十三個にして之亦滿洲四個所中に冠たり

△通常郵便物（四十二年度）

	引受數	配達數
臺灣	二三、八〇四、七八八	二三、三〇八、三五一
朝鮮	四〇、八〇一、二〇二	四五、〇八一、一五一
樺太	一、四五二、一五二	一、八五五、五五五
滿洲	二一、〇六〇、三二五	二八、八〇〇、四五三

一人に對する引受個數臺灣七通、朝鮮四通、樺太五十四通、滿洲六十通又配達比例臺灣八通、朝鮮四通、樺太七十一通、滿洲六十八通

電報通數（四十二年度）

	發	着
臺灣	五四三、四四六	四九四、五五四
朝鮮	一、六六六、四五三	一、五八七、六八九
樺太	八六、一九一	九五、〇九九
滿洲	二一〇、八八六	一七八、七一二

人口百に對する通數比例を見るに臺灣の發信に於て十六通、朝鮮十二通、樺太三百二十九通、滿洲三百十通又着信臺灣十六、朝鮮十六、樺太二百七十九、滿洲三百五通にして滿洲群を拔いて多數なり

●平壤移輸出入額

去二月中平壤稅關移輸出入重要品價格は輸移出三千百三十六圓輸移入十四万五千百二十六圓合計十四万八千二百六十二圓にして四十三年二月中の輸移出千三百二十五圓移輸入七萬四千七百九十六圓合計七萬六千百二十一圓に比し合計に於て七万二千百四十一圓の增加にして即ち殆んど十割の貿易增進を見たるものといふべく而して鎭南浦の本年二月中の貿易額出二万四千七十圓入一萬六千三百三十五圓計四萬五百五圓に比すれば約十萬八千圓の多額なりしといふ

二月中京城商況

京城日本人商業會議所調査

二月中に於ける京城商況を見るに前月に引續き不振の聲高かりしが下旬に入り季節品の入荷漸くあるに至り且つ諸官衙の年度更新期に近づくを以て此等必要品の賣行相當にあり殊に京元、三南滿鐵道竣功期短縮等市況恢復の機運に向ひたるが如く大に人氣を強ふするに至れり亦目下滿州方面に於けるペストの蔓延猖獗を極むるの有樣なるも未だ當市場に著しき影響を受けざるが如しされどペストの媒介たる鼠屬逐に要する器具等の賣行き盛んなりしと云ふ亦た米價の激烈なる勢を以て暴騰しつゝあり其の原因種々あるべしと雖も籾の輸入無税なる浦潮に向け多額の輸出を試るに至りし等其の主因なるが如し現に昨年浦鹽方面に輸出せる籾米は僅かに十萬石に達せざるも本年に入り既に五十餘萬石を輸出したりと云へば實に前代未聞の盛況と云はざるべからず今後益々增加を見るに於ては實に有望なる新販路を發見したるものと云ふを得べし而して目下浦潮に於ける白米は石に付二十四圓弱の高價を稱し居れり如斯盛んに籾米の輸出を見るに至りたるは喜ぶべき現象にして亦一般經濟界の發展に大なる效果を與ふるものなり朝鮮人側一般の商況を見るに例年に比し稍々順調を呈したるもの感あり是れ昨秋の豐作及併合後に於ける恩典等大に人氣を恢復し各品とも相當の需用あり米價は益昇騰し季節品の賣行弗々あり亦牛骨牛皮等滿州に於けるペスト流行の爲め清國よりの出荷殆んど停止の姿なるを以て母國市場何れも品薄を告げ相場は日々昇騰の一方にして見越し買入等をなすもの多きを見るの狀態にあり要するに今後追々暖氣に向ふと共に母國人入京各種事業の開始等漸次盛況を呈するに至るべし

●長春の鼠疫

昨日午前九時十五分長春發水間警務部長よりの電報は左の如し

長春に於ける病勢は近來著しく減退し管内は勿論數日來城內にも一名の患者なく城外及附近村落に少數を見るのみ是れ清國官憲が能く我が指導に從ふが爲めなり

吉林方面は初發以來概算三百六十一名餘を出したるが昨今大に減退に趨きつゝあり

●滿洲鼠疫患者

昨日奉天防疫本部より左の電報ありたり

管內患者なし管外奉天三、鐵嶺一、長春附近村落一〇（內女一）城內外新患者なし）管外累計四、八七〇 管內外累計五、〇九七

●滿洲の日清合同消毒班

長春に於ける日清合同消毒班の其の後の狀況を聞くに消防疫總局にては今回日本の醫師を雇入れ又日本消毒隊を雇入れて數十名の巡警等に消毒方法を練習せしめ而して商務總會は防疫費として約二萬圓を同班に寄附したりといふ

外事一束

▲獨逸 陸軍は千九百十五年までに兵力を五十一萬五千三百餘人に擴張す。
▲同國 現在の平時定員は五十万四千四百餘人差引一萬八百餘名の增加也。
▲土領 亞刺比亞エーメンに於る暴徒鎭壓軍は三隊に分れて進擊中なりと。
▲漢口 居留日本人中には自衛の爲め義勇隊を組織せんと目下計劃中なり。
▲蜚說 墨西哥にて日本が海岸根據地地峽鐵道使用權を得たりとの風說が。
▲米國 內に傳はり墨國外相は駐米大使に訓令其虛說なるを米國に通告す。
▲英皇 戴冠式參列の米國特派大使ハモンド氏に對し一大訴訟提起さる。
▲皇子 御看病中なりし獨逸皇帝皇后兩陛下は皇子御輕快により伯林還幸。
▲淸國 鹽政大臣載澤公は各省に通告して今後一切鹽價の引上げを嚴禁す。
▲改革 淸國陸軍部は既に三百名の淘汰をなし近く又續行し一般官吏恐慌。
▲暴吏 滿洲千金寨巡警暴動は新防疫團長劉某の使嗾に出でし形跡ありと。
▲劉某 は有名の排日派にして是迄屢日人に迫害を加へし事有在留日人激昂。
▲好果 藤波賀谷兩博士鼠疫硏究上意外の好結果を收めて歸京の途に上る。

文苑

つきぬいくさ（下） 嘯洲

もだへつゝ、猶手に苦しみつゝ
さまよひ出でぬは涙の中
またもとゞろくつゝの音
鳴鼓叫喚をわとにして。」
正死の巷いかたほとり
草をしとねにまどたひて
疲れに得たへでまどろめば
卯の花の香いかんばしや。」
正八劔をひらめかし
誠の道にいさぎよく
倒れてふみむたほれなむ
戰は無限ず風寒し。」





召使れ初 第二十七回 黑法師

「先刻よりの詞、上の天で云ふたとも思へぬ、さらば眞實改心をしたぢや喃」とれ力の聲は嬉しさに慄ひたり「正しう改心、妹に愧ぢぬ事でござりませぬ」と佐十郎は吐息と共に云ひしが「私不所存の爲め此上妹を苦しめては爲りませぬ」

「そなた改心とあるを聞いたれや、れ誰さぞ歡び、町家奉公はさて置き身を殺しても滿足するであらうわの」と口には云ひつも、尙は懸念する處あるが如く「親を詐つてはならぬ、僞言はあるまいの」「神々御照覽、この心に詐はござりませぬ」「れゝ」とれ力は歡びの聲を擧げ「れ誰さまれ聞かせござりましたか」「佐十郎云ふてと眞實に相違なくば、此上ない家の慶事、ぢやが是までの仕方では什麽とも挨拶の致しやうないわのう」と佐五右衛門はまだ信じかねたるやうなりき

「れ疑はせでござりまする、これも御有難、私今日までの所業が所業、父上母様の御納得ないに無理も在しませぬ、なれど天地神明に誓言、露偽りない證據は唯今よりれ誰樣を退ふて、海老屋の暇取つて參りまする、浪人こそ致したれ正木佐十郎の妹、町家へ奉公に遣したとあつては世間へ澄みませぬ、先祖御位牌へ澄みませぬ」

「その詞、僞ではあるまい、なれどれ誰にはれ誰の覺悟、一たんの契約、海老屋へ手傳ひに參る旨、確と詞を番ふたからは、今さら變がへも致されぬ、假令町家へ奉公は致しても、心の底が澄みてあらば、淸い月もやがて出る、大道をのさばり歩いて兩刀を手挾み、その行爲に武士らしい所なくば、町人より劣つて犬畜生の群にも入らうぞ、紀念の品質受け、これへ持參したとあるが眞實なら、母上に預け置き、そなたはそなたの身を立つべき分別、何故致さぬ」と佐五右衛門はきつといふ、「いかさま御懸念、それまでに思ひ詰め覺悟の上奉公に參つたとあるを、引き戾し暇を取るは、れ道志でもあるまいと存じまするに由つて、れ誰はれ誰、私は私の一分立て、父上母様に御安堵させ申しまする」

「よく云ふた、その詞に僞りないか」「長いた目に御覧あらせられ、まづ」と佐十郎は懷中より紫縮緬に包みたるを取り出して「これがれ紀念、れ誰命にも替への大切の品にござりまする母様御預り下さりませ」「僞りでもなく持つて居ましたの」とれ力は嬉しさに笑の溢るゝを禁め難ねて確かに預り、明日にもれ誰へそなた改心の事、悦しう知らせ遣はさうわの」「そこで」と佐五右衛門は膝すゝめ問ひかけ「何の道で身を立つるな、何時までも浪人、無頼の若者手につけて、町人百姓いぢめなぞ致すまいの、酒に性根を奪はれて、人の望にあるまじき不望不義を商賣のやうに致すまいの」「御安堵ござりませ、私心の底に日の光り見ねてござります」「日の光りが見ねた、そりや嬉しい、仕官の望得やつたか」「また其處までは參りませぬ、なれど――」と佐十郎は羞ぢながら「石州濱田御城主松平周防守樣に少々便宜もござりまするで――」「濱田公は海老屋御出入の御屋敷、れ誰へ仕官の便宜あるとは、奇縁の糸が引きあるやうで、什麽もと不思議に存ずるが而て誰樣の御推擧、御扶持は何と定つた、それ聞きたい、打ち明けてたもるまいか」老人の心早く巳に珠玉を手にせる心なりき

東京電報（十五日）

▲國庫債券償還 政府は本日國債整理委員會を開きたる結果四十四年度にて五分利國庫債券六千五百八十萬圓及會中五分利百號公債二百十八萬圓を償還する事に決定し其の時期は來る四、六兩月中なりと

▲遣英宮留別宴 英帝戴冠式に御名代として御差遣の東伏見宮及同妃兩殿下には來月十二日加茂丸にて横濱御發艦に付同殿下には來る廿日御本邸に於て留別晩餐會を催し英國大使、同夫人、桂首相以下各大臣を招待せらるゝ筈なり

▲選擧組公使謁見 新任駐日選擧組公使ブラヂャムノンチ、ダーカー氏は本日宮中に參內し信認狀及前公使解任狀を奉呈したり

▲內閣一部交迭說 院內に再び內閣動搖說傳はり桂首相は議會の閉會を待て內閣の一部を改造し政友會の原、長谷場の兩氏入閣すべしと傳はれり政友會は是れ一時の洗首に非ずして情意投合の結果早晚實現さるべきものとして議會閉會期に多大の望を屬し居れり然れども近く條約改正貴族院組選擧等の重大問題を控へ居れば內閣の改造を見るが如き事あるべからずと觀測さる

▲低利資金融通 農商務省は明年度に於て五千六百萬圓の低利資金を融通すべく今回より水產、森林組合へも融通する方針なり

▲帝國議會閉會 帝國議會は來る二十一日閉會のことに確定したり

▲朝鮮銀行案修正綱要 政友會政務調査會にて調査中の朝鮮銀行案に對する同黨の意向は二十八條の「總督」を「政府」に二十七條の「利益配當價格」を「配當し得る利益金額」とし利益一ヶ年資本の百分の十二以上とならば其半分を政府に納付すと修正せり

▲風敎維持建議案 貴族院の一部に於ては物質的文明の進步は一般國民の道義的觀念を薄弱ならしめ我邦根本思想たる忠孝の精神を動搖せしめつゝあるを以て愼重の審査の結果風敎維持に就て敎育勅語及戊申詔書の精神を貫徹せん事を期し其の手段方法を定め一個の建議案を提出する事となり調印を求めて十六日正式に議會へ提出したり

▲輕便鐵道稅率改正 營業稅法中改正委員會は輕便鐵道稅率を私設鐵道と同一の稅率に改正する件即ち第三條第二項私設鐵道の次に「及輕便鐵道」の五字を加ふる件を議し原案を可決したり

▲北里博士陞敍 傳染病研究所長北里博士は本日高等官一等に陞敍されたり

●朝鮮銀行監督權 政友會は朝鮮銀行の監督權を總て政府に與へ只銀行券發行に對する監督權のみを朝鮮總督に與ふることに決議したり

▲大阪疑獄判決 松村元助役、天川三藏、竹中鶴次郎に對する瀆職事件の判決は大阪控訴院に於て松村元助役は控訴棄却、判決懲役六ヶ月追徵金千七百圓竹中鶴次郎は前判決取消懲役六ヶ月追徵金千四百圓に處せられ天川三藏（前代議士）は證據不充分にて無罪となれり

露清國交險惡

伯林電報（十六日） オブセルイヤ露都通信に依れば清國外務部は領事館問題に付露國の要求を拒絕したる爲め露清間の國交は再び險惡となれり

朝鮮問題と議會

十五日の貴族院に於て恩賜加算の件鐵道通信出納員に關する件及間島領事裁判の法律案委員會を開き總て衆議院送附案通り可決したる旨兒玉會計局長より山縣政務總監に公電達したり

穀稅問題の經過

朝鮮穀物輸移入稅撤廢運動の爲め曩に朝鮮會議所聯合會を代表して當地山口會頭東上中なりしが去る十一日代議士大內暢三氏提出者となり藤原惟郭、石橋爲之助氏外多數の贊成を經て愈々今期議會に建議案として提出されたり建議の內容を記さんに朝鮮に於ける輸出及移出品農產物にして就中穀物を輸出及移出貿易の重要品とし常に全輸移出額の七割內外を占め毎年米穀の輸移出額少くも九百万圓乃至一千二百万圓を下らず依つて以て購買力を增進し其の一箇年の穀移入額三千七百万圓乃至四千萬圓の間にあり而も其の穀移入品の十分の八內外は悉く之れを母國製產に仰ぐ亦輸移出の穀物は殆んど其の全部を母國に移出せり因て朝鮮に於ける穀物輸移出の增減は直ちに以て朝鮮人の購買力如何に關し延て母國製產品の朝鮮輸移出に大なる影響を及ぼし相互の不利殆んど計るべからざれば現行法に依るときは朝鮮に於ける一般農民の收入を減じ其の發達を阻碍するのみならず農業の進步を圖らむとして常に多大の經費を投じ幾分の奬勵的方法を講じつゝある主旨に矛盾するものと認むと云ふにあり尚之に對し政府の答辯をも求むべし

鐵道協會大會

來る五月京城に開く

帝國鐵道協會は各元老大臣以下朝野の文士數萬を網羅せる大團体にして現に其總裁は寺內陸軍大臣之に任じ居れるが併合後鮮滿の發展著しく且つ鐵道聯絡の現狀愈大陸的となれるに鑑み本年の大會は之を京城に開催する等なり而して其期日は尙ほ未定なるが多分五月中旬なるべしと又參列會員は約三百名に達し而かも各方面の名士のみなりと云ふ

曖昧極まる辯明

林東拓理事談

東拓會社が鴨綠江より淸川江に到る百八十海里の漁業權を拋棄したなど頻りに流傳せらるゝが、ナニも拋棄したとて決して騷動すべき程の國家問題じやあるまいが、併し實を言へば同方面の漁業は東拓會社に於ても餘り望んで居らないのだ、元來朝鮮沿岸の漁區に就ては淸韓通漁條約なるものが在つて彼は我を犯かさず我亦彼の沿岸に踏み入らないといふ嚴重の約束がある、然るに近年支那帆船は遠慮なく朝鮮領海に出沒して殆んど爲すが儘に跋扈せしめて居るといふ始末である、思ふに斯の如き狀態に在るのも畢竟我が漁民が該方面に入り込んで居らぬ爲めであつて、即ち此方に隙があるから彼等が乘ずるのである、現に昨年の如きも警察船を配備して相當の取締を勵行したが驅室者は拂底去の觀あつて中々追ひ付くものでない、斯ういふ有樣であるから成るべく多く同方面に漁民を扶殖して其根底を固め彼をして密漁の餘地なからしむるが何より急務だといふので、東拓に權利を付與せられ开が目的の遂行を特命せられたのである、補助金を貰つて居る以上否とも言へず澁々引受けた譯さ、而して昨年の經驗により大いに方針を改めようと思つて居ると彼の九州水產組合が該方面の漁業經營に就て其希望を訴へて來たから東拓に於ても之を諒とし、若し五六百艘の漁船を常住的に派遣するなら承諾しようといふ交涉になつて居るのだ、尤も伊左奈商會との契約があるから未だ決まつた譯じやない、孰れ遠からざる內に發表出來ようと思ふが現に角拋棄したと云ふ譯じやない云々要するに東拓の漁業權は遂に空しく虛名を擁するに過ぎざるが如し

安奉線の工事

安奉線の全部開通は明春三月の豫定にして着々其工程を進めつゝあるが最も困難を感ずる隧道開鑿及び橋梁架設工事も今日の所案外良好に進步し沿線第一の大隧道たる福金嶺の如きも當初ノ豫定は一日の掘進九尺なりしもの目下にては十七尺內外を掘りつゝあり此模樣にて進めば全線の開通は或は豫定より一二ヶ月を早むるならんかと

全州平野談

波多野氏

目下全羅南北道視察中の三井理事波多野承五郎氏が群山に於て往訪の客に語りし全北平野に就ての氏の所感如左

▲全北平野は豫想せしよりも狹少なり槪して朝鮮は大陸の一角に在るも反つて日本內地に比し非大陸的なるの平原にして此の如し予が既に視たるやの感あり全羅北道地方の如き朝鮮第一の平原と思ふ是を日本の關東平野信濃川流域阿武隈平野乃至木川流域の平野に比し遙かに劣れりと言はざるを得ず、然して予は全北平野には最早

▲大農的放資の餘地なしと思ふ東山細川大倉等其他の農場は既に大資本を放下し經營なしをるを以て餘す所の土地は點々各地に所在するに過ぎざるが如し故に今後大資本家の營農は不利益の地位に在りと云はざるべからず尤も千圓か五百圓の小資本を擁して自ら耕作し傍ら朝鮮人農業者を指導啓發すべき所謂

▲中小農者は最も必要にして又其入り來つて活動すべき充分の餘地あるを思ふ次に現今行はれつゝある各地の水利組合の事業完成せる曉には

▲山地の鮮人をば平地に移すと云ふが如き人力の平均を計り耕作地乃至山林の經濟的需給配合を計るの要ありと思考す、獨り全北忠南に限らず是は經濟上既定の要件也

●敎科書拂下代 朝鮮總督府學務課より各學校に配付すべき敎科書は普通學校二十一萬二千冊にて一冊定價六錢四厘此金一萬三千五百六十八圓高等科程度敎科書一萬二千四百冊一冊定價十四錢此金一萬七千三百六十圓にて累計三萬九百二十八圓なりと

●煙草試作場主任會 十五日より一週間度支部に於て開會の煙草試作場主任並に關係官吏の協議會に提出せられし諮問事項左の如し在來種改良外國葉試作內地種耕作等に對する意見煙草採種圃を設くるの可否程度煙草肥料中各地黑土及綠肥の經濟に適應すべき肥料の種類調製法及普及法煙草耕作中煙草耕作の得失及普及法煙草耕作指導に對する意見、煙草耕作の經濟狀態改善方法煙草試作成績周知方法

●普通學校設置計劃 內部は來年度より各道に百餘校の公立普通學校を設置すべしとは既報の如くなるが內部に聞く處によれば現在各地に於ける公立甲種及乙種普通學校を合せて百校前後にて他は一として見るべきものなく斯くては三百餘郡の殆ど一般に一郡一校を普及するは不能となす故に敎育の設置を必要とし茲に設立の計劃を爲し居るものなりと

▲人さま〴〵▼（八） 一瀨武內君

初から官鐵に這入り足掛正さに二十三年モウ鐵道で一生を終る積りですトは南大門驛長鐵道局參事補一瀨武內君の述懷である、鐵道で一生を終る覺悟、豈に眞率の心掛けでは無いかと記者は坐ろ感嘆の念に禁へなかつた、だからでもあるまいが毎年恒例の鐵道の宴會には君親から案內狀を持參して貴客の御使は鐵道のみで一瀨君にして始めて出來る藝當であろふ、君は和歌を行る、既に又夕の群を拔き中々溫雅な風格を帶びて居る、復彼の不格好の体付きでチントンシャンと彈き語りを行り而かも四疊半の異猫に名妓を惱殺せしむるに到りては天下一品無類飛切の珍である

南大門驛の地位

驛長一瀨武內氏談

南大門驛は之を吾が內地の各驛に比較を求むれば乘客收入に於ては恰かも神戶驛と相伯仲の程度に在り唯だ長距離の旅客多きを以て實質上の收入に到ては無論其下位に在るを免かれず則ち鐵道院との運絡上其バランスを控除するを以て然る結果を見る所以なり而して其取扱收入は如斯神戶と匹敵するも乘降客數に到りては到底彼に及ぶべくもあらず

▲朝鮮人の程度に顧み彼の四等客車を聯結せしめんとは豫て議論あり問題にして當局に於ても折角討究せしが朝鮮鐵道の如く其會計の至難の下に在りては遂に不可能の事情あり則ち之を現在の狀態に見るも貨車を利用して漸く客車の補充を爲し居る仕樣なれば也▲所屬驛員は槪數二百名を算するが專屬的に驛務に從事せるものは約百六十名なりとす▲又一般乘降客の不用意なるに到りては實に驚くの外なし例へば手荷物に對する注意の如き內地一倍の手數を掛けつゝあるに事故頻出し而かも其原因は乘客自身の不用意に基く場合多きを見る思ふに懸かる所以のものは殖民地の惰性にも依る可けんも一は又日本人は未だ長途の旅行に慣れざる爲めなりと云々

●仁川商議書記長 仁川商業會議所は秋谷書記長辭職に付其後任者として藤村某氏を採用することに內定したりと云ふ

●記念敎會堂新築 英國敎會は故タアナー僧正の記念として金五萬圓を以て中央敎會堂を京城に新築することを可決したり

實業觀察團歡迎會

十五日盛大なる歡迎の內に入京したる實業觀察團は十六日午前八時三十分パコダ公園に集合し鍾石の塔、龜碑を見物し徒步昌德宮に向ひ李王殿下特別の御思召を以て裝飾されたる仁政殿の謁見室を參觀し次に動植物園及博物館秘苑を巡覽し正午李王家より茶菓の饗應を享け一時半花電車にて景福宮に赴き宮內を參觀し午後三時慶會樓なる日鮮合同大歡迎會に臨む同樓は極めて美麗に裝飾しあり京城民長歡迎辭及漢城府民會長趙重應子爵の歡迎辭あり此に對して段階介氏は主催者を代表し挨拶あり斯くて諸種の餘興に移り主客十二分に歡を盡して散會したり因に李完用伯、閔丙奭子、李容植子、趙重應子、朴齊純子等始め多數貴族も列席したり尙十七日は團員隨意に市內散見する筈也

●京城水道收入豫算 京城水道が愈來四月より官營として經營さるゝに付ては當業者が之に對して計上したる四十四年度の收入豫算を見るに家專用千七百戶分にて一戶一ヶ月平均三圓づゝ此金六万一千二百圓計量二十一万六千立方一立方に付十錢づゝ此金二萬一千六百圓公設共用二百個所一ヶ所一ヶ月七圓此金一萬六千八百圓量水器使用料百個一個一ヶ月三十五錢此金四百二十圓累計十萬二十圓なりと

●京城稅關出張所の統計 南大門驛京城稅關出張所に於ける客月中の輸移出入物品取扱成績を聞くに輸移出額は三萬百五十三圓にして之れを前月に比すれば一万七千五百十三圓を增加したり而して該輸移出品の重なるものは牛皮にして尙ほ輸移入額に於て十數萬圓の增加を見たり輸移入品の重なるものは生金巾シーチング九萬三圓煙草一万余圓砂糖一万余圓其の他綿糸絹布交織物金屬類等合せて八十八万三千百三十一圓にして日に增し輸移出入盛況を極めつゝありと云ふ

最近の京城人口

警務總監部調査に係る最近の日鮮人戶口を記せば左の如し

▲日本人側（本年一月末日現在）
戶數 一萬一千二百四十五戶
人口 男 二萬〇四百四十九人 女 一萬八千五百五十一人 計 三萬九千人

▲朝鮮人側（十二月末日現在）
戶數 五萬二千六百九十七戶
人口 男 十二萬四千百九十八人 女 十一萬四千二百〇一人 計 廿三万八千四百九十九人

●藥師川警務部長歸任 去十五日忠淸北道へ出張したる藥師川京畿道警務部長は十七日歸任の筈なり

●土岐僙氏入京期 第一銀行監査役たる土岐僙氏は目下釜山滯在中なるが來る十九日頃入京すべしと

●菅田書記官出張 度支部書記官菅田勇氏は向ふ三週間の豫定を以て忠北及全南地方財務視察の爲め出張したり

●安東縣の居留民 安東縣居留民團管內に於ける二月末現在戶口數は戶數千五百十二、人口男二千九百九十二、女二千四百八十五計人口五千四百七十七なり

●平安淸川江鰕漁 平安道淸川江口の前後約三十里の沿岸に於ける鰕は由來西朝鮮の水產物として重要なる位地を占め在來鴨綠江岸の支那漁夫の來漁するもの四五月の候に至れば千五百人に達し彼等は約三百艘の戎克に搭じて一種の精巧なる網を淺瀨の潮流急迅なる個所に投じ以て年々漁獲し安東縣の卸賣相場にて十四萬圓に達し販路を南滿洲に拓き居たるが一昨年政府の密漁船を取締まる事となりたる結果此方面の漁業を以て生計を立て居たる鴨綠江口二ヶ村の淸國人は全く職を失ふに至れり斯く淸川江口の鰕漁は在來支那漁夫の之に從事する者なかりし爲昨年は全く該方面の鰕漁の中止を見空しく漁利を逸し去りたるも今回農商工部に於ても種々之に對する計畫を立て朝鮮人漁夫の養成網の製作等に從はしむるやに聞く現に角鴨綠江口の秋季の鰕漁獲十六萬圓を合せて年三十萬圓に上ると云へば西朝鮮の鰕漁業は頗ぶる有望なるものと言ふべし

▲京城手形交換高▼

三月	金高	枚數
十六日	七八九五七 七八〇	三七三

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客十五日の分 乘車客 七七一 下車客 七一一 乘車賃金 一、七四四、八四

▲南大門驛貨物發着十五日の分 發送 七五噸 到着 三三[illegible] 貨物賃金 八〇六、〇一

▲龍山驛乘降客十五日の分 乘車客 一八二 下車客 二[illegible] 乘車賃金 二五七、六九

▲龍山驛貨物發着十五日の分 發送 一七噸 到着 二二[illegible] 貨物賃金 五六、七〇

公人私人

△岩城僧太郎（總督府技師）佐[illegible]

▲仁川港の出入船舶▼

▲顯田丸 十七日橫濱より入港

▲木浦丸 十七日大阪へ向出港

▲治外法權▼

寺內總督[illegible]全鮮敎育會の代表者等に語つて曰く儒敎主義は朝鮮敎育に關し看過すべからざる必要條件たり主從、父子、男女の關係より見るも儒敎は其本國よりも朝鮮に於て圓滿に發達したる[illegible]會は國主義に對し十分の保護を[illegible]しと思ひ居れり云々▲之を以て見れば我總督は今後朝鮮人に向かつて儒敎主義敎育を施さんとするもの[illegible]のだ、併し余輩は鮮人敎育の必要上儒敎主義にのみ因るの可ならざる[illegible]するものであるのだ▲總督の旨は儒敎は其本國支那に於けるよりも朝鮮に於て圓滿に發達した[illegible]ど、儒敎の發達、开は全く總督[illegible]通りだ、されば○○○民は○○○○知らしむべからず○○○○[illegible]て半島の山川草木人民等が今日疲弊の極に達したのであるのだ▲[illegible]に寺內總督は親切の人だ、親切の[illegible]れはこそ、鮮人の疲弊を憫み、救[illegible]蘇生せしめんとして意を精神敎[illegible]にまで致するのであるのだ、併し[illegible]を以てすれば總督の儒敎一天張り[illegible]じて効無きの結果に了るものであ[illegible]だ▲今や世界の大勢、之を代表す[illegible]のは飛行機であるのだ、此飛行機[illegible]代に儒敎主義の敎育とは餘りに[illegible]て居るのだ、任を鮮人敎育に受け[illegible]者は宜敷總督に說くべしである[illegible]待ては甘露の日和とやら、仁川[illegible]もドウヤラ出來るようになつた[illegible]此上に同地人士が過去の苦から[illegible]忘れず、孜々として商賣に勵む[illegible]韓國銀行改め朝鮮銀行の監督權[illegible]總督に與へずして大藏大臣に與[illegible]とは阪谷前大藏大臣の主張で[illegible]者の主張するところだ、若し此[illegible]遂れば總督には不便だ▲商業會[illegible]法定には當局者が反對の樣だ、[illegible]こそ記者は昨年來英來流の會員[illegible]主唱して居るのだ▲會議所當局[illegible]は如何にして課金の設立を容易[illegible]めんかではなくして、如何にし[illegible]所屬物を有效なる[illegible]の出來[illegible]するかだ。

●平壤民團豫算 平壤居留民團四十四[illegible]

●大邱製粉會社近況 大邱製粉株式會[illegible]

月寄十五圓七十一錢▲止六十九錢▲四月寄十一圓七十錢▲最高八十二錢▲最低[illegible]
月寄八十三錢▲止八十二錢▲五月寄九十錢▲止七十六錢
●十六日新場三月寄六十八錢▲四月寄十一圓七十七錢▲[illegible]
八十三錢▲五月寄九十五錢[illegible]十二錢▲止七十三錢

▲相場電報（十六日） 明治町西村支店電

▲京取同	六二、九〇〇	六二、八〇〇
▲電鐵同	六二、八〇〇	六二、五〇〇
▲大阪同	六六、三〇〇	六六、五〇〇
▲新鐘同	六六、五〇〇	六六、〇〇〇
▲大阪同	一〇八、三〇〇	一〇八、四〇〇

▲大阪株式（四月限）

▲大阪同	一三一、三〇〇	一三一、五〇〇
株式同	一三一、一〇〇	一三〇、〇〇〇
同直同	一二九、八〇〇	一三〇、〇〇〇
同引同	一三〇、八〇〇	一二九、[illegible]

十九圓臨時部一萬八千百九十銭出經常量四萬五千七百一圓臨時費二萬四千五百四十七圓なり
…試むる筈に準備を急ぎつゝありと

▲大阪期米
●十五日前場止十五圓六十七銭▲四月止八十二銭▲五月止九十六銭▲後場三…
●十六日前場三月寄六十八銭▲四月寄八十二銭▲五月寄九十五銭
●十五日後場三、四月出來不申▲五月

▲仁川米豆取引
寄十一圓七十七銭▲最高値上▲最低七十二銭▲止七十三銭

▲神戸米 ▲當限引

▲大阪株式 (前の後場)(四月限)(當日前場)
三五、〇〇 三四、九〇
三五、〇〇 三四、七〇

▲大阪株 ▲大阪電燈 ▲東京 ▲株新 同 同 同 同



恐ろしき女の半生

▽井門支店演夫の懺悔談

貴郎の方でもれ前なら抱へて遣らうぞと仰云るから元より抱へられようと藤々出張た妾の方に異議のある筈がありますまい、加之に條件一切旦那の方の持ひ様次第、此れで貴郎に異議もなく御存じの通り三年間三百五十圓假契約が濟むと同時に渡された手附金の百五十圓を受け取つての歸り途、何處かで遊んで試たくなり來萬る電車の淺草行へ乘り込んでブラリと降りたは本定りの廣小路、公園をダルグル廻つて見たが一人ちや一向面白くない演劇でも見て遣れと飛び込んだ宮戸座、夫れも二幕程で厭ねて見れば何時迄居る理由にも行かず他の出物るのを待つて出掛る木戸の外でバタリ會たは男地獄の澤村宗十郎、元來言葉を交はした事もないんですが金儲はあつても淋しさに自分の身体を持ち扱ひ兼ねてる矢先でしたから此奴一番遊んで與れ様と兎の間に思案を定めて、二重マントに中折帽、男乘も伴れずツンと澄して千束町の方へ行く奴の背後からコー云ふ風姿に手を掛けて「親方ッ」と云ふと突然だから吃驚しましよう「エッ何誰でげす」と來たのを上から冠せて「紀の國家の親方でしよう、久しいはねえ」と息も繼がせず「差し閊へがないんなら折衝て貰い度いの、ね好いでしよう」と甘へて見せる、さうさんフンた入來なすつたのかいと安心すると「ア左様でしたか私しやア突然で吃驚しました、何誰で在つしやいましたかしら」何百人とある御親類成程一々は覺へて居られますまい、況んやですね全然先方では見たこともない妾ですもの「アヲ親方薄情だワ、口惜しいね何誰でしたつけなんて、冠つた頭巾は行く所まで行けば取つて見せるは、サア……」と斗り先に立つと慌て「決して左様云ふ譯ぢやないんで……今夜は一寸他に約束がありますから」と焦らしの奥の手を出す、其様な事で此方が本家だ「ソリヤ登懸な親方だから左様もあらうね、ホンの一寸で好んだけど先約があつちやア詮方がないから又の御見の時までた預けよ、アバヨ」高飛車にツンとして歩行出すと、跡を追つて「お腹立ちや困りますよ、イ、エ其の仲間の處へ行くんですから今日に限つたことはないので……」と思ふ壺へ嵌つて來た、今度は此方が奥の手を出す番だ、と斗りに「妾しの様なスベタの爲めに仲間の義理まで缺いで遣らうのれ志は嬉しいけれど夫れぢやあ却つてた氣の毒よ、殘念だけど又の日まで逢ひたい我慢をしませうよ」と誘いの水を向ける「人間は情の動物でさアね仲間の義理より私ア貴女のれ志が嬉しい是非た伴をさして下さい、ね」惡かつた處は後に緩鶴れ詫びを致しますと氣味の惡い事を猫撫聲でさ。此所でポンと蹴つて終ふ様な譯はないが夫れ迄の恨はないから「眞實かい親方嬉しいねえ」とデレて見せると造作崩して「エヘヘヘ」相乘車の頬ベタオッ付け乘り着たのが奥の植半、此れから跡は聞いて耳の毒、見ては眼の毒。何ですつて、れ前も少々男欲しやの時だつたらうと仰云るの、サア聊か其の氣色なきにしもあらずでしたね、オホ、、、、。(つゞく)

●刑事の不手柄

山梨縣東山梨郡春日井村大字■名生れ田中一治(三)が二月二十八日午後六時頃京城初音町東拓社員清水元太郎方に忍び入り柳行李二個(在中品代三百餘圓)及び日本刀を窃取鍾路分署に檢擧されしことは既報の如くなるが十六日京城區裁判所刑事部法廷に於て宮脇判事秋場檢事の係りにて公判開廷せられ被告辯護人として岡田辯護士出廷せり檢事の論告及び辯護人の辯論等を聞くに被告田中一治の實兄は醫學士にして郷里にては相當の資産家なるが去る二月二日京城に來り本町六丁目に居住せる叔父土屋文太郎を便り奉職口を探す内前記清水元太郎が會社用の爲め地方に出張するに際し留守宅の監理を託されしより土屋に於て留守番に大切な事となり田中に留守番を命じ大切なる品は土屋宅に持ち來る様命じたるに小使錢に不自由を感じ居たる同人は一時の出來心より一部の品を入質せしも露現叱責を恐れ一時姿を晦ましたるが叔父土屋に於て搜査の上跡來を訓戒の上願出たるに檢事局に送りしもいなるが斯くとも知らぬ檢事は直ちに起訴せしに跡にて被害者清水元太郎と土屋文太郎より連署を以て嘆願書を檢事に提出せしも起訴後にて訓戒放免と爲す能はざりしも秋場檢事より執行猶豫の請求ありたり因に警察官が如斯事情を意見書中にも付せず恰も苦心して犯人を搜査したる如く報告せしは感服せざる次第なり

●女教師の留學

西部仁達坊内資洞九十二統一戸前陸軍參領金顯兌四女金壽晶は中部淑明女學校教師に從職中なりしが今般東京女子大學に入學の爲め十六日午前西大門驛發列車にて出發せりと

●趙子爵邸の椿事

十五日午後一時二十分頃永樂町三丁目子爵趙重應氏邸門内に於て警衛巡査補朴仁淳(三十)が警衛用の拳銃を持て戯れに下男全道完(十七)に差向けたるに誤つて引金に指が觸れたるより發射したる彈は全道完の眉間に命中し同人は即死したるにぞ加害者は大に驚き直に現場を逃走したるが此報世間に傳ふるや時節柄刺客が趙重應子を襲はんとしたるなりとて一時大混雜を極めたり因に犯人は十六日午前に至るも未だ縛に就かずと

●觀音講說教 若草町一丁目曹洞宗兩大本山別院にては十七日午後二時及び七時より十八日午後七時より觀音講中新勝國向並に田中主任の說教あり
▲花園町日蓮寺にては十七日午後一時より月並觀音說教並に稱題講話御詠歌等あり參詣隨意

●合同擊劍大會 來廿六日午後一時より第二憲兵分隊道場に於て憲兵隊、警察側合同の擊劍大會を開催する事となれり當日出場競技の劍士は約百餘名なりと言へば定めし壯觀を極むるべし

●被■さんにれ灸 京城西部仁達坊…

●罰金 西部夜珠峴一統四戸再淳敬妻韓錫娘(二五)は昨年十月以降色酒屋を初め鑑札なくして醜業に從事西大門分署巡査補に告發され罰金三圓に處せらる
●罰金 福岡縣人當時旭町二丁目大工職水戸熊次郎(四五)愛知縣人當時旭町二丁目近藤增吉(三五)の二名は十五日午後十一時頃水戸方に於て賭博を爲し南部署に檢擧され各罰金五圓に處せらる

●演藝だより

●壽座 好評なる立志團十七日の藝題は神田界全九幕にして配役は辰(青山)父親源治(稲葉)彌吉(花島)五十嵐(加藤)令嬢雪子(寶井)れ紋(藤島)藝者た島(郡)同奴(淺井)子分長太(一二三)
●仁川歌舞伎座 毎夜大入の片岡一座は種もの〻俠客傳永樂德太郎を演ずと
●五雲會例會 十九日午前十時より京城大和町梅の家に於て素謡例會あり番組左の如し 西王母(中西)羽衣(上部、水越、立、松寺、淺井)忠度(熊谷、水口)井筒(島、細山)國栖(ツ池田、阿内、高木)高野物狂(子長谷川、吉住、箱島)須磨源氏(田淵)

四ッ手網

◎都々逸 京城よし女

露堂すねたる無眼な文も 先ぢや見るやら見ないやら
文はやりたし書く手は持たぬ 何時もかくのは恥ばかり
水も洩らさぬ二人の中を もれて嬉しい笑ひ聲
春の日中に偶利さげて 不平顏するれかみさん
風に柳ですましちや來たか すまぬは妾の胸の中
柳ぞーやら戀するらしい れ出へ〜と招く振り
風にうらみがかず〜ござる 柳ねかすも風故に

●仁川仁謠會 仁川同會にては十八日午後六時より水津旅館に於て月並素謠會開催の由にて番組は 吉野天人(中西、藤野)小袖曾我(谷野、川井田、川畑)千年(代田、古賀、天井)櫻川(前田、百瀬、杉本)盛久(増本、加賀田)藤戸(丸野、小田)七騎落(島越、古賀、川畑、百瀬、杉本)祝言

▲遠くの噂▼ 越前福井の桃花學舍とは福井藝妓が鎮業賢の墨齋提げて通ふ學校で多勢の別嬪不別嬪たち毎日毎朝手習ひやら算盤の稽古に一生懸命の御殊勝近頃は學問も追々と進んで算用數字の稽古とまで出世をしたが妓に何人かの老妓連、何としても覺ね切れぬ情けなさに符牒を編み出して漸くことで覺ね込んだといふその符牒の次第は一は電信柱、二はのん、三は耳、四は電、五は雀の頭、六は象の鼻、七は猿の顔、八は瓢箪、九は高張提燈といふので「御祝儀も電信柱では仕様がないわ」「左様さね、せめて雀の頭もあれば」といふやうな事が廓の流行語になつてゐるとす

京龍歌留多會選手假番附

昨紙所報した京龍各歌留多會代表者會合の上作製したる選手假番附幕下十枚目迄を示せば左の如し

東方
大關 關脇 小結 前頭 同 同 同 同 同 同 同 同 同
馬秋田古石梅井福森米佐森補
路月邊賀迫屋上島山林藤

西方
大關 關脇 小結 前頭 同 同 同 同 同 同 同 同 同
高元草石寺柏永宮藤村松價安
松山野田岡木海綺波上成井田

幕下十枚
前頭 同 同 同 同 同 同 同 同 同
小城矯前下高矢山眞平
山戸藤田田見野口野田

前頭 同 同 同 同 同 同 同 同 同
安松荒佐加井佐々池藤瀧
逵久牧伯藤保木田井井本

年寄 松岡 節田
世話役 高木 志賀

右は云ふが如く假番附なれば來る四月三日の大會に於ける成績に依りて確定發表する都合なり因に大會に於ける賞品は幕内一等金牌、二等三等銀牌以下十等迄未定、幕下一、二、等迄銀牌以下七等迄未定、三段目一等より五等迄未定の由なり

●東洋軒雷右衞門 愈々十七日を以て入坂歌舞伎座に於て開演の筈

▲平民文學▼

▲南山町二丁目辻屋花園に貸家あり風光絶佳の地水道電燈の設備あり(本町二辻屋本店)▲旭町一丁目の高砂亭の花子は素敵のハイカラで僕は好きだが本町一丁目の○○さんに怒られますから仕方がない(チン〜生)▲櫻井町邊の矢野さん滿月の様子に大熱々で十三日の彼の雨の中をチクチクと(東海逸人)▲近頃電話口へ出て先方の番號を云つても中々出て來ぬ時に依ると再三再四請求すると却つて言ひ返しをする例令先方が出ぬにもろ一度は返事をして貰ひ度い急ぎの時など實に閉口する何卒注意して貰ひたいものだ(呆れ生)▲主一生君投書して呉れ玉へ(係)▲二割引暮しの暴利貸野○正吉は民團役所の書…の職員となる新…に似氣なく…人の振舞に一人として鋒く云ふ者なき…が吏員中に其の暴利の罠へかゝり月給を丸呑にされて困つて居る者がある長さんれつきませんか(南門生)▲仁川二町目祈所は雨が降ると非常に道が惡くなるが困るです何とか其筋の心配を願ふ(依頼生)▲斯う云ふ僕も法様子に閉口です來る五十年の國父陛下在位紀念日には陛下の聖恵に預れる半島住民は宜しく一大紀念として一艦を建造して陛下に献ず可し各士如何です(一浪士)▲大分陽氣になつて來た嗚呼そろ〜又もや花見花見と浮れしやんすかな(山神)▲聞けば井門支店の演次女郎は身の毛の彌立つ如き惡者だそれで能くも神妙に井門で勤めたものだ(聞吃驚)▲追々暖氣に向つて事業も起る時なのに如何してこんなに不景氣かしらん御醉りさんは如何ですかいな(一商人)▲ア、親愛なるみどり君僕を忘れて呉れはすまい僕は曾て君と共に早大の門に學び共に墨田にボートも漕ぎ麹町の君が窓に胸襟を開いて未來を肚語し合つた分の字だ▲以來三星霜互に便りもせんで爾後の消息を知る事を得なかつたが數日前始めて君が當地に居ることを知つて飛んでも行つて昔話したかつたが僕も今威輌不遇の身が事も出來ないが赦して呉れ▲聞けば今度の君が身、僕は聞いて一夜泣き明した曾て秀才と歌はれた君、理想の高かつた君、僕は泣いた、富榮と云ふ一婦の爲に▲ア、しかしもう過去の事だ僕は何んにも言はん願くば君反省して呉れ給へ君も僕もこれからだ自愛自重せられたし事情あつて居所は秘すどうぞ僕の心を汲んで呉れ(分の字)

今日の運勢

三月十七日舊二月十七日 二黒丙戌赤口 危
△一白 新事見合せ〻事保符受印書書寄話事を禁ず旅行婚談効無
●二黒 諸事謹愼の事盗賊遭失運色の害を愼しむ旅行金談貸借効なし
△三碧 物事識り難き日なり取引取組貸借…

●天氣豫報 (自十六日午前六時至十七日午後六時)
北東の風曇但少雨
(本町五丁目三一館觀測)

荘司章儀豫テ病氣ノ處養生不相叶本日午前七時死亡候ニ付此段生前辱知諸君ニ謹告仕候
追テ葬式ノ儀ハ來ル十八日午後四時出棺龍山興福寺ニ於テ執行仕候
明治四十四年三月十六日
女 荘司ヨチ
島居庫太
親戚 荘司得太郎
扇安太郎
友人 一同